

第56号

平成19年

12月23日

すまいるたうん



汐入

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

趣味に生きる

ビーズ工芸

長江カツエさん

「できるだけ作り続けたい」

生まれも育ちも南千住の長江カツエ（75歳）は、趣味でビーズ作りをしています。ビーズを始める前は「五円玉手に磨いた五円玉をスプレーでさびにくくしてきれいなひもで編み上げ、宝船や亀・五重塔など、豪華で縁起の良い作品を作っていました。銀行での両替が困難になり五円玉の入手が困難になったなか、巣鴨のお地藏さんの店先でビーズ作品に出会いました。

「これを作りたいと思ったの」
お店のビーズ作品のビーズの数を調べて帰ってからメモして独学でマスターしました。チラシの裏に書かれたビーズの数の書かれたメモは、長江さんの大事な献立表です。花ビーズ・フラワービーズ・針金・大小の安全ピンを使用して作ります。赤黄緑の交通安全のストラップ・クリスマスツリー・お雛様・かぶと・お人形など小物から大きくじやくまで作成したビーズ作品はこの10年で延べ1万個になります。お雛様の台座はベニヤ板を

正方形に切り色紙を張って作って、お人形やお雛様の顔もマジックで書き丁寧な作品になっています。今では、巣鴨のお店から発注されたり、おとめて頼まれることも多くなりました。

趣味とは自由時間（生理的必要時間と労働時間を除いた時間、余暇）に、好んで習慣的に繰り返しおこなう事柄やその対象のことを言います。その通り、長江さんは家事を終えると座って1人黙々と作品を仕上げ、疲れると商店街をぶらりと散歩したり、ご近所にお茶を飲みに行き、また作品作りに没頭しています。

「喜んで貰えるのが嬉しくて」

知人や施設や小学校などにプレゼントして手元に作品は数えるほどしか残っていません。作品が出来上がった時の感動はなかなか味わう事のできない喜びだと思います。感動、達成感など普段の生活だけではなかなか味わえない気持ちや味わえて凄く人生を楽しくしてくれる本当に素晴らしい事だと思います。またそのビーズ作品をプレゼントすることで多くの出会いがあります。「ありがとう」貰った方からの言葉には、笑顔が付いて来ます。笑顔の絶えない長江さんは2度大きな手術を克服しています。ご主人の介護で長年苦労されたこともあります。

「済んだことは済んだこと。」

「ご一緒に暮らす息子さんも大病されて、今は大変な時ですが、常に前向きです。さっぱりした江戸っ子気質で苦労も笑い飛ばす原動力は趣味があるからなのでしょう。長江さんから、いただいたクリスマスツリーと人形の可愛らしさは私の周りで何人も笑顔にしてくださいました。一度切りの人生を心持ち一つで楽しく暮らせるかどうか変わってきます。趣味で人生明るく楽しく、興味のもてる何かを探して挑戦してみてください。」

今年一年ご愛読ありがとうございました。お話を伺った方達のこだわり、真摯な生き方をなかなかまとめられずに七転八倒しております。「お客さんがすまいるたうん持って来たよ」と取材先から笑顔で言われるとほっと致します。ジョイフル三ノ輪の惣菜の店「きく」さんは、紅しょうがの天ぷらが昨年の倍、売れるようになったと言われました。

南千住には、素敵な方々が沢山おられます。また、来年もそんな南千住の知られていない方々にお会いしてつたない文章ですが、皆様にお伝えしたいと思っております。印刷発行して下さる東京新聞の中村所長にも感謝です。皆様、良いお年を 鬼塚佳代子